

「大樹」と名付けた父より

私の趣味は盆栽と日曜大工。盆栽歴20年ほど、日曜大工歴10年。いずれも自己流。盆栽は、雑木盆栽で近隣の山野に普通に生えている木を、それなりに育てるのが好きです。特に木の種類を集めるのが好きで、様々な種類をコレクションしています。だから、手に入らない木もたくさん購入しました。一度育てれば木の名前が覚えられ、山にある木の名前は、おおよそ分かるようになりました。これって今ではすごいことでしょう。



また、知らない木の名を図鑑で調べることも多くあります。古い図鑑では、木の特徴と合わせてその木の用途が載っています。この木は家具の材料だとか樽の材料であるとか。弓矢に使用されていたとか……。木材が生活と密着し、自然に産する多種多様な木材を適材適所に使っていたんだなあーと昔の人の知恵に驚かされます。ところが、今では過去の話になりつつあります。また、巨樹も伐採しつくされ、建築用材として流通している木材の大半は小径木の針葉樹です。日曜大工に使用する木材も広葉樹はなかなか手に入らず、扱いやすい2×材等での工作が多いです。だから、なおさらかつてはいたる所にあった原生林に育った巨木へのあこがれが大きいのかもかもしれません。巨樹はただ単にそれだけが存在したのではなく、広い原野で他の木々と助け合って大きくなり、様々な虫や小鳥、それに蛇や大型動物にはかかせないものとなっていたのでしょ。かつて北海道で巨木を伐採し製材しようとしたところ、「うろ」と呼ばれる空洞に小熊の死骸が入っていたと言う話を聞いたことがあります。そのふところの大きさ、様々な生物を育む巨木「大樹」を自分の子供の名として付けました。

酒樽用にと北海道からヨーロッパに輸出されたオーク材(樽材)、今では惜しいことをしたものだと思います。かつて北海道にはさぞかしの巨木があちこちにあった事でしょう。残念。(父)

「大樹」字のごとく、大きな樹になるように。人に信頼され、頼られる人物に。大きな樹のあるところには、豊かな自然とみのりある土地が広がっている。人間も鳥も動物もそういう所に集まって来る。

大樹の廻りにも、いろんな情報や素晴らしい仲間が集うように願って、名付けました。雨あがりの真夏の日に産まれた、私達の太陽です。



現在大樹は小学3年生ですが、学年の中で一番大きく友達もたくさんいて、お互いに助けられたり、助けたりと、名前のようにからだも心も、大きな人間になっていると思います。このまま素直な心を持ち続け、明るく元気な人に育ててほしいと願っています。

ゴハンと牛乳が大好きで、スクスク大きくなりました。是非一度、大樹町におじゃまして、雄大な自然と大好きな牛乳を味わせたいと思います。本人も、日本に自分と同じ名前の町があることに驚き、興味を持っていますので、家族で訪れる日を楽しみにしています。

大樹町のますますの発展を、遠くよりお祈りしております。(父)

卯年になったばかりの昭和62年1月。我が家に男の子が誕生しました。手と足



がたいへん大きく、「この子は大きくなりますよ。」と、病院の看護婦の方たちからも言われていました。

さて、問題は名前を決めることです！ 私が良いと思った名前は、主人は全く気に入らず、ついには「卯年だから、うさぎとつければ良い。」なんて言い出して……。その時、義妹が「気に入った名前があるんだけど“大樹”ってどうかなあ。」と言ってきて、主人も義母も大賛成。私もその名前を見て一目で気に入り、やっと名前が決まりました。

字を見て一目で気に入ったので、どういう意味で義妹がこの名前を考えてくれたのか、この企画があるまで聞いたことがありませんでした。先日義妹に電話して聞いてみました。「やっぱり自分も、この字がとっても気に入ったし、大きな樹のようにまっすぐ大きく育ってほしい、と思って決めたよ。」と言っていました。母としても同じ気持ちです。おかげさまで中学1年生になった今、彼は私の身長を追い越してしまいました。これから身長同様、心の方も大きく、そして思いやりを忘れない子に育ってほしいと思っています。(父母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番763号

昭和49年11月9日、「大樹」ひろきは沖縄で生まれました。

父は樺太、母は九州、そして息子は沖縄生まれと北から南と様々である。

生まれた時は、2500グラムと小さく生まれたので、大きな樹のようになるように「大樹」と名付けた。色々な名前を考えて、父親の文字を貰って「紀彦」と母は考えていたが、父は早々に役場に「大樹」と届けを出してしまった。

当時沖縄は昭和47年4月にアメリカ合衆国から日本に返還され、まだまだ混乱している状況で、本土から来た一部の人達を役場では偏見の目で見て、一時とまどった事もあったが、島の人達は純朴でとても親切で、昔よく見られた日本的優しい心がいっぱいありました。

「大樹」は身体は小さく生まれましたが、南国の熱い太陽と、真っ青なきれいな海のエネルギーをいっぱい貰って元気に育ちました。

1歳7ヶ月で北海道に帰り、「大樹町」と言う地名を知り「俺の町だ！」と言っていました。今は成人し社会の一員として頑張っています。(母)



福島県大越町の大樹さん

特別住民番766号

現在、中学校(2年生)に通っている長男が生まれたのは、14年前の昭和60年5月17日でした。前年の3月に長女を出産していたので、まわりの人達から「2回目のお産は楽よ。」と言われていた私は、「そうか、2回目は楽なのか。」と思いを込むようになっていきました。

ところが、いざ出産！ となるとなかなか生まれてきません。結局、先生二人がかり、10時間以上かかるお産となってしまいました。「ああ、やっと生まれた。」と思った時、「男の子だよ。」という我が耳を疑う声。「えっ、女の子じゃないの?」。私は、女の子が欲しかったのです。そして、助産婦さんが、「あらあ、4000gもある。だから、なかなか出てこれなかったのねえ。」と驚きの顔。予期せぬ言葉と出産の疲れで、体の力が本当にぬけてしまいました。「男の子」が生まれた。と喜んだのは、主人と私の父、母達でした。とにかく、女の子の名前しか考えていなかったのも、毎日、見舞にくる主人に「名前、決まった?」、主人は主人で「何か考えた?」と、お互いに名前のことばかりです。女の子の名前はすぐ浮かぶのに、男の子の名前となると全然浮かばないのです。でも、名前がないと生まれてきた息子がかわいそうになってきて、退院の前日、ゆっくり考えるようにしました。

体重が4000gもあった男の子。それじゃあ、大きく生まれて、大きく生きていってほしい。そう考え、「大生」にしようと、さっそく主人に電話を入れました。主人は、「だいき」という名前はいいけれど、漢字がいま一つだというのです。二人で沈黙してしまいま



た。「あっ、思いきって、大に樹木の樹で、大樹と書くのは？」と聞くと、「うん、それでいい。」と、生まれてから一週間後に名前は決まりました。

退院し、家に入ると、命名「大樹」大樹のように大地にしっかり根を張り、大きくたくましく、おおらかに、のびのびと育っていくように、と書いた紙が一枚、テーブルの上のっていました。(父母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番774号

平成2年6月19日、あの日はとても暑い日でした。

母親の体調も悪く、7カ月での帝王切開の出産となりました。

体重は、1225グラム、極小未熟児、仮死状態の誕生でした。そのまま、救急車で銭函の小児総合センターに入院となったのです。



先生からは、呼吸器系が未発達の状態、助かる見込みについては何ともいえないとのことでした。どうしていいのかわからないまま一夜が明け、先生方の懸命な治療により落ちついた状態となった時には、胸の痞えが一つ降りた気がしました。

名前を付ける時に、小さく弱く生まれたこの子が、健康に大きく育つように、また、「新山」の大きな樹となり他の木々を支えることができるように成長し、そして、社会へ少しでも貢献できる人物になってもらいたいと願いをこめて「大樹」と命名しました。

入院し、半年が過ぎて、ようやく退院し、待ちに待った我が家での生活がいよいよスタートしたのでした。

最初は、毎日のように、咳き込んで吐く状態が続き、何度か入退院を繰り返しましたが、一年を過ぎるごとに、徐々に体力が付き、普通の生活ができるようになりました。

今では、家族と長旅もでき、小さい頃の心配がうそのようで、命名した時の思いが現実近づき、さらに、大きな希望へと変わりつつあります。(父)

千葉県浦安市の大樹さん

特別住民番777号

こんにちは。道新の記事を見て、応募させていただきました。

登別温泉にいる実家の母が、この記事を見つけて送ってくれました。この4月に生まれた長男の名前が「大樹(たいき)」というからです。

主人が義樹、そこから一文字をとって、主人が付けた名前です。(主人は岐阜出身で北海道の大樹町のことは知りません。)



この記事を見て、私も、そういえば大樹町ってあったなあ、と思い出し、我が子の名前の響きが耳慣れた感じなのはそのせいだと気付きました…。そう思うと、とても親近感が沸き、迷わず応募することにしました。よろしく申し上げます。(父母)

熊本県熊本市の大樹さん

特別住民番783号

平成7年12月19日、待望の長男が誕生しました。私達にとって初めての子供でしたので、不安と期待でいっぱいでした。主人は産まれる前から、「樹」という字を使いたいと言っていたのでいろいろ考えていましたが、結局産まれて顔を見てから付けようという事になりました。そして、その日を迎えました。感動の一瞬でしたが、その感動も束の間でした。



産まれた我が子は、隣の子供と肌の色が違って、チアノーゼで紫色をしていて、保育器に入っていました。産婦人科の先生の話があり、心臓に雑音が聞こえるから、大きな病院で検査をした方がいいと言われ、すぐに運ばれて行ってしまった。今度は、小さな体に幾つもの機械が付けられて、小さな手には注射と、とてもかわいそうな姿で

保育器に入っていました。病名は「大血管転移症」。すぐに手術が必要という診断でした。病院から、すぐに名前を付けて下さいと言われ、まず、私達がこの子にしてあげられる事は、名前を付けてあげる事でした。

これから大手術を受ける我が子に付けた名前は「大樹」でした。大地に根をしっかりとって、大きな樹木のように真っ直ぐに育ってほしいと願いを込めて命名しました。

心臓の手術は大成功でしたが、術後の経過が悪く、その後も半年以上人工呼吸器を付けたまま入院しました。約一年かかりましたが、元気に退院する事が出来ました。

野球が好きで、毎日バッティングやスライディングする元気な大樹です。そんな大樹も、今年12月で4歳になります。これからも、名前に負けられないくらい元気で素直に育ってほしいと願っています。私達も、いろいろな人に助けられ、励まされて二人で頑張ってきました。その事を忘れずに、一生懸命に愛情を注いで育てて行きたいと思っています。(母)

東京都八王子市の大樹さん

特別住民番793号

父親である私の名が「宏樹」で、自分の子供には樹の付く名をつけたいと思っていました。実は息子の命名は、私ではありません。私の人生の師と仰いでいる方に名付け親になっていただいたところ、偶然にも「大樹」の名をつけていただきました。

話ができすぎていると思われそうですが、私自身も、樹のつく名前ならば、最初の子には「大樹」かなと考えていたので、息子はきっと「大樹」のように成長する使命があるんだな、と勝手に納得しているところです。(父)



茨城県藤代町の大樹さん

特別住民番794号

平成6年7月7日生まれの我が家の大樹(タイキ)は、現在5歳です。

命名の由来という程、大層なものではありませんが、まずその音の響きが気に入って、遙か親を越えて行けという思いをこめて名付けました。

名前については、一生のものとよく考えたつもりでしたが、届けを出して、ほっと安心して、見直してみると、名字は「杉山」、名前は「大樹」、「杉山の大大」と、何だかできすぎた氏名となってしまいました。

当の本人は、全く親の思い入れとは関係なく、1歳9ヶ月違いの兄と、1歳6ヶ月違いの妹にはさまれて、毎日自己主張に忙しく、のんびり育っている場合ではないようですが、声だけは、誰よりも大きくて、どこにいても良くわかります。親としては、大器の片鱗とりたいです。

思いがけず北海道に縁ができたことですし、いつか、ぜひ、大樹にその名と同じ大樹町を見せてやりたいと思います。(父)

